**会議結果報告書**

1. 会 議 名　令和８年度　第３回　印西市環境推進会議（市民会議）

2. 日　　時　令和８年９月１８日（金）９:３０～１１:３０

3. 場　　所　市役所　会議棟　２０４会議室

出席委員：白川副会長、岩井委員、片桐委員、村形委員、久保薗委員、富川委員、
橋本委員、渡辺委員

4. 事 務 局：増田政策推進係長、田口主査補、柴田

5. 傍 聴 者　０名

6. 配布資料

・会議次第

・印西市環境家計簿

・いんざいエコカレンダー2027（案）

7. 内容

（１）開会

（２）副会長挨拶

（３）議事

① 市民会議の取組について

―市民会議の取組について事務局より説明―

副会長：今回は環境フェスタに絞って話し合いたいと思います。前回もいろいろな意見がありましたが、最終的には環境フェスタは継続して実施する方向だったと理解しています。本日は「続けるかどうか」ではなく、「どのように進めるか」を中心に議論したいと思います。

委　員：今までは１月が最後の会議でしたよね。前回は３月に会議を開いて準備を進めたらどうかという意見が出ていました。やはり５月の会議から準備を始めるのでは遅いと思います。

委　員：私も議事録で確認しましたが、１月ぐらいから準備を始めるべきだという話があ

ったと思います。

副会長：事務局としては会議の回数やスケジュールの都合もあると思いますが、もう少し前倒しで準備を始めることは可能でしょうか。

事務局：毎年１月は環境基本計画の進行管理が中心になるため、環境フェスタだけに時間を割くのは難しい状況です。そのため、今回や１１月の会議から少しずつ環境フェスタの準備について話し合う時間を設けたいと思っています。トータルで考えると今回のように少しでも話し合うことで長く準備期間を確保できます。

委　員：では、３月に会議を開くこと自体は可能ですか？

事務局：不可能ではありません。ただし今の会議の中でうまく準備を進められるなら、それでも良いと考えています。今回から少しずつ時間を取らせていただいているのは、そのためです。

副会長：なるほど。そういう意味では今日は来年度の環境フェスタに向けた「第１回準備会」になりますね。それでは自由に意見を出していただきたいと思います。

委　員：クイズ形式そのものは良いと思います。ただ、市民会議として環境フェスタに参加する意義や役割をもう少し考え直してもいいのではないかと思っています。

副会長：どういうことでしょうか。

委　員：市内には環境活動をしている団体がたくさんあります。それらの団体と同じようなことをやるのではなく、市民会議だからこそできることがあるのではないでしょうか。　例えば、市内の環境団体を一覧で紹介したり、市の取組みを紹介したり、市民アンケートを実施したりです。　そういう展示ができれば市民会議の存在意義も伝わると思います。

事務局：その内容については他の団体がすでに似たような展示を行っています。活動団体の紹介やパンフレットの配布などをしているため、少し重複する可能性があります。

委　員:なるほど、では逆に市として市民会議にどんな役割を期待しているのでしょうか。

事務局：環境に特別関心がない方でも楽しみながら環境について知ってもらうことです。会場もイオンモールですので、普段、環境活動に触れない方も多く来場されます。そのため長年、クイズ形式で親子連れの方々に環境を楽しく学んでもらう取組みを続けてきました。

委　員：もう一つ考えているのは、環境基本計画の内容をもっと紹介してもいいのではないかということです。グリーンインフラだけでなく、さまざまな環境活動を網羅しているのが環境基本計画ですよね。環境フェスタでも、環境基本計画の取組み

状況をわかりやすく伝えられたらいいと思います。

副会長：それは良い考えだと思います。ただ、あまり難しい内容をそのまま説明すると一般の来場者には伝わりにくいのかなと思います。環境基本計画の進行管理をしていますとかだと子供たちはもちろん、大人でもなかなか聞いてくれないかもしれません。

委　員：確かにそうですね。でも、環境基本計画があること自体一般市民は知らないと思うので、だから難しい説明ではなくても「印西市にはこういう環境の計画がありますよ」ということだけでも伝える意味はあると思います。例えばクイズに絡めながら、環境基本計画の一部を紹介するような形です。

副会長：なるほど、環境基本計画そのものを前面に出すのではなく、クイズや展示の背景として紹介するということですね。

委　員：そうです。例えば今までやっているクイズ形式のままでも、そのクイズが環境基本計画の内容と結びついていることを伝えるだけでも違うと思います。

委　員：あまりにもクイズだけになると背景や目的が見えなくなってしまいますから。

副会長：そう言われると理解できますね。実際には環境基本計画の概要版も配布していますし、希望される方がお持ち帰りになることもあります。 ただ、正直に言うと環境カレンダーが人気ありますよね。

委　員：環境基本計画の冊子はどうしても堅い印象がありますからね。

委　員：よくわかります。だからこそ環境カレンダーやクイズのような親しみやすいものの中に環境基本計画とのつながりを少しだけ入れるという感じがいいのかなと思っています。

委　員：ブースに来られている方から「この会議って何をしているのですか？」「市役所の組織ですか？」と聞かれることもあります。

副会長：市民会議の存在や活動内容を少し紹介することも必要かもしれませんね。

委　員：まさにそこです。ほかの環境団体に比べると市民会議の存在感はあまり知られていません。だから環境基本計画だけでなく、市民会議はこういう役割で活動しているということも伝えていけたらいいと思います。

副会長：確かに難しい部分ではありますが、市民とのコミュニケーションの場として環境フェスタを活用するという考え方は大事ですね。

委　員：私は環境フェスタに参加したことは少ないのですが、普段勉強会を主催していて感じることがあります。参加者は高齢者が多いのですが、環境問題に関心を持っている方もいます。子ども向けだけではなく高齢者がもう少し深く学べるような内容もあっていいのではないでしょうか。

副会長：高齢者が興味を持ちやすいテーマというと、どのような内容がありますか。

委　員：環境問題をもう少し詳しく知りたい方や見学会や団体の勉強会のような内容に関心がある方もいます。高齢者も参加しやすい工夫があるといいと思います。

委　員：環境フェスタについて２つほどお話ししたいことがあります。　１つは景品のことです。スタンプを多く集めた方と少ない方で景品が違いますよね。私はあの取組みは良くないと思っています。

副会長：どうしてですか？

委　員：私は環境フェスタに２０年近く関わっていますが、子どもたちの中には「早くスタンプを押してほしい」「景品が欲しい」という気持ちだけで見て回っている子もいる。本来は環境について知ってもらうことが目的なのに、景品集めが目的になってしまっているように見えることがあります。だからスタンプの数で景品を変えるやり方は見直した方がいいと思っています。

副会長：ただ、数ではなく中身を評価するということになると、具体的にはどう判断することになるのでしょうか。

委　員：例えばじっくり説明を聞いたとか、きちんと内容を理解したとかですね。

副会長：それは判断するのが難しいですよね。

委　員：確かに難しいですが、少なくともスタンプの数だけで景品を変える必要はないと思っています。

委　員：私は少し違う印象を持っています。昨年と今年ですがブースに立って説明していましたが、子どもたちは結構しっかり話を聞いてくれていました。「スタンプだけ押して」と言う子どもは、私はあまり見かけませんでした。

委　員：私も同じ印象です。ブースの中では話を聞かずにスタンプだけ欲しいという子はほとんど見ませんでした。

委　員：どちらかというと親御さんの方が「次へ行こう」と急かしている感じでしたね。子ども達は意外と説明を聞いてくれています。景品はそのきっかけ作りとして機能していると思います。

委　員：もちろん、それはそれで一つの見方だと思います。私は長年環境フェスタに参加してきた中で感じた意見として申し上げています。

委　員：景品があることでブースに来てもらえるなら、その後どうやって話を聞いてもらうかは私たちの工夫次第ではないでしょうか。

委　員：私は景品に差があることを正直初めて知りました。全部スタンプ集めたら景品がもらえるという認識でした。

副会長：実際にはスタンプ数によって景品が違いますよね。

事務局：確か５個以上と１０個達成で景品が変わる仕組みだったと思います。回れた方は上位の景品、時間がなくて一部しか回れなかった方にも参加賞的な景品があるという考え方ですよね。

委　員：私もそう思います。頑張ってたくさん回った方が少し良い景品をもらえるというのは自然な仕組みだと思います。

委　員：私は少し考え方が違いますが、皆さんの意見はわかりました。

副会長：この件については賛否両論あるということですね。引き続き検討課題としておきたいと思います。

委　員：もう１つあります。次回以降、環境フェスタをイオンモールの建物内でできないかという話を聞いたことがあります。

事務局：私たち環境保全課ではなくクリーン推進課が主催している事案なので、そのような話は把握していません。

委　員：もし店内で開催できるなら人はかなり集まると思いますよ。

委　員:以前､別のイベントでイオンモールの通路部分を使って開催したことはあります。

委　員：そうなんです。店内なら今より多くの来場者が見込めると思います。

副会長：確かに集客という点では魅力がありますね。ただ、そのあたりは主催課とも関係しますので、まずは意見として共有しておきましょう。

委　員：私の地域では最近、東京電力の変電所建設の話題がありました。説明会にはかなり多くの人が集まりまして、普段はあまり発言しない住民の方も熱心に参加されていました。やはり自分たちの生活環境に関係する話題には関心が高いんだと感じました。

委　員：それを聞いて思いましたが、環境フェスタのテーマとしてデータセンターを取り上げるのはどうでしょうか。高齢者だけでなく、多くの市民が関心を持っているテーマだと思います。

委　員：私も十分ありだと思います。今までのザリガニや自然観察中心とは違って、現実に印西市で起きている環境問題ですからね。

委　員：例えばスタンプを押すためのクイズは１問だけにして、残りはデータセンターに関するパネル展示にするとか。印西市で今どんな開発が行われているのか、市民に知ってもらうきっかけになると思います。

副会長：ただ、変電所建設反対運動のような形にしてしまうのは違いますよね。市民会議としては､賛成･反対を主張する立場ではありませんから。取り上げるとしても、

中立的な立場で情報を提供する形になると思います。

委　員：もちろんです。例えば印西市の地図を出して、「ここにデータセンターがあります」「ここに変電所があります」というように現状を紹介する。そのうえで、良い面もあれば課題もありますよ、という伝え方なら良いのではないでしょうか。

委　員：私もそれくらいの内容ならいいと思いますよ。市民の関心が高いテーマであることは間違いありませんから。

委　員：そもそも市民会議の役割って、市民の声を行政に伝えることだと思います。そういう意味では、いま市民が関心を持っているテーマを扱うのは自然だと思います。

副会長：ただ扱い方は本当に難しいですね。私たちも勉強しながら慎重に考える必要があると思いますよ。

事務局：市民会議の設置目的は、市民の皆さんに環境保全の取組みを知っていただき、実践につなげてもらうことです。環境フェスタでも、そのための啓発事業という位置づけです。そのため、特定の事業者や事業に関する議論を中心にしてしまうのは、少し趣旨が異なるのではないかと考えています。環境フェスタは議論の場というより、子どもや家族連れの方にも環境を身近に感じてもらう場です。これまでクイズ形式を続けてきたのも、そのためです。ですので、あまり難しいテーマや特定の事業を中心とした展示になると、環境フェスタや市民会議の趣旨から離れてしまうのではないかと思います。

委　員：確かに取り扱いは難しいですね。ただ、今そういう問題が市内で起きているという事実を紹介する程度ならいいのではないでしょうか。

副会長：いろいろ意見が出ましたが、今日だけで結論を出すのは難しいと思います。次回また具体的な展示内容の検討をしていきたいと思います。

② 環境家計簿について

―環境家計簿について事務局より説明―

事務局：印西市では環境家計簿という啓発活動を行っています。家庭で使用する電気やガス、水道、燃料などの使用量を記録し、二酸化炭素排出量を把握するツールです。省エネ意識の向上や家計の節約にも役立ててもらうことを目的としています。エクセル版とＰＤＦ版があり、皆さんには実際に使ってみていただき、次回の会議で感想や改善点を聞かせていただきたいと思っています。

副会長：まずは事務局の説明について、質問や意見があればお願いします。

委　員：このＱＲコードから何を見ればいいのですか。

事務局：そちらは地球温暖化や省エネに関するリンクになります。ＵＲＬは市のホームページにアクセスできます。そちらからエクセル版をダウンロードすることができます。

委　員：入力すると何がわかるんですか。

事務局：二酸化炭素排出量が計算されます。継続して記録すると前年と比べてどれくらい削減できたかなどもわかります。

委　員：まず気になるのは二酸化炭素排出量が最新のデータになっているのかということです。それから提出している人が年間どれくらいいるのか知りたいです。

事務局：係数については最新のものを確認して使用しています。提出者数は非常に少なく、年間で十数件程度です。

委　員：提出すると二酸化炭素排出量は出ますが、その数字が多いのか少ないのかわからないです。平均と比べてどうなのか、評価がないと意味が薄いと思います。

事務局：そのあたりも含めて改善点を知りたいと思っています。どうすれば利用者が増えるか、皆さんの意見をいただきたいです。

委　員：そもそも一年分の電気やガスの領収書を集めて入力するのは大変です。普通の人はやらないと思います。もっと簡単な仕組みにした方がいいのではないでしょうか。

副会長：人数を増やしたいのはわかりますが、市民にとって何かメリットがあるのでしょうか。かなり手間がかかる割に得られるものが見えにくい気がします。

委　員：東京電力や東京ガスのアプリを見ると、毎月の使用量や料金は簡単に確認できますよね。

委　員：例えばポイントが付くとか、市民税が安くなるとか、何かインセンティブがないと続かないと思います。

委　員：簡単な質問に答えるだけで、自分の二酸化炭素排出量や省エネ度合いがわかるような診断形式の方が、市民は参加しやすいと思いますよ。

副会長：今の環境家計簿は手間がかかる。だから利用者が少ないと思います。もっと簡単に省エネについてわかる仕組みにした方がいいと思います。

委　員：環境家計簿という名前にこだわらなくても良いかもしれません。例えば「みんなで省エネチャレンジ」のような形にして、取組みやすくすることも考えられます。

委　員：面白いですね。家庭でできる省エネメニューを掲示して、実践した項目をチェックするような方法もあるかもしれません。

委　員：数字の記録よりも参加しやすそうですね。

事務局：本日のご意見を整理し、今後の方向性を検討したいと思います。

副会長：それでは環境家計簿については以上とします。

③ 環境基本計画の推進に係る取組の検討について

―グループ協議―

副会長:時間になりましたので、グリーンインフラグループから内容を報告してください。

委　員：今日は、ホタルの保全地域について話し合いました。　前回の会議でも、市内には現在確認されている場所以外にもホタルが生息できる場所があるのではないかという話が出ていました。ただ、今年の夏は猛暑や天候不順もあり、実際に現地調査まで進めることができませんでした。
そのため、まずは10月から11月頃にかけて委員数名で候補地を調査してみようという話になりました。現在確認されている場所以外にも、生息可能な環境が残っているのではないかと考えています。安食ト杭の方もいるかと思います。
候補地が見つかったとして、その後どう保全していくかについては今後の課題です。他団体との連携も必要になると思います。今日は小山会長が欠席だったので小山会長の意見も聞きながら次回以降さらに具体化していきたいと思います。

副会長：ありがとうございます。次にサスティナブルグループお願いします。

委　員：私たちは環境カレンダーの掲載写真について確認を行いました。来年度版の掲載内容について候補写真を見ながら検討し、おおむね内容は決まりました。　11月の市民会議で最終確認をお願いする予定です。もし何か意見や気がついた点がありましたら事務局経由でいいので連絡お願いします。

副会長：ありがとうございます。昨年のカレンダーも好評でしたので、今回もよいものになるといいですね。それでは議題は以上になりますので、事務局にお返しします。

（4）その他

事務局：その他、委員の方からなにかございますか。

委　員：議事録についてですが、内容の経緯や発言した人の意図が伝わりにくいように感じます。会話が短くまとまりすぎているので、もう少し詳しく議事録を作成していただきたいです。

事務局：はい。ご意見ありがとうございます。今後の議事録作成の参考にさせていただきます。

（５）閉会

以上

令和８年度第３回印西市環境推進会議（市民会議）の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和８年１０月２９日

印西市環境推進会議（市民会議）　委員　富川　和幸

印西市環境推進会議（市民会議）　委員　橋本　千代子